

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 5月23日 更新

事務事業名		市道登記測量事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	事業部	課長名	水野 孝春
	施策	5	道路ネットワークの充実			所属課	建設課	担当者名	澤田 哲郎
	基本事業	15	適正な維持管理の推進			所属班	工務班	(内線)	2255
予算科目		会計一般	款 8	項 2	目 1	事業連番 11153	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑪ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	市道用地の登記事務及び各課からの登記依頼に対応し、合志市が取得した土地の権利を公示し、市財産の保全を図るための業務。平成17年に改正不動産登記法が施行され、登記の電子申請の導入等、これまでの登記制度を大幅に変更する全面的な改正が行われた。それにより、新たに登記原因証明情報の提供や、地籍測量図へ土地筆界点の座標値の明記等、実務が大きく変化し、より高度の専門的知識が必要となった。そのため、登記専門の嘱託職員を雇用し、業務の充実を図っている。また、本市は国土調査を昭和40年～50年代に行っており、当時の測量精度と現在の測量精度の差から現地と地図が一致しないという事例も多々みられ、登記事務において大きな課題となっている。そこで、国土調査修正や地番修正等をおこなうための現地測量等の委託料を計上し、問題の解決に努めている。
【業務の流れ】	・業務に伴い登記事務嘱託職員任用、報酬支払い。 ・登記案件受付、書類の精査、不足書類作成業務の依頼、測量委託、成果品納入、登記嘱託書類作成、登記嘱託、登記完了証の受領、代金支払。 ・熊本県公共嘱託登記土地家屋調査士司法書士協会へ登記事務を委託。成果品納入。委託料支払。
【主な予算費目】	報酬、委託料、使用料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	特になし。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)		26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
25年度に合志市が取得した土地の登記を行った。		26年度に合志市が取得した土地の登記を行う。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 登記嘱託件数	件	市道登記を前年度実績で見直したことによる委託料の減	
イ 測量・登記業務委託件数	件		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等取得用地		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)	
		→ ア 筆数	筆
		→ イ 地積	m
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)	
市が取得した土地の所有権を合志市へ移転する。		→ ア 取得用地のうち登記が完了した割合	%
		→ イ	
* ③ 成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
市が取得した土地の所有権移転が遅れれば、市民とのトラブルを引き起こす虞がある。			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込
① 活動指標	ア 件		175	78	100	92	115	115	115	115
	イ 件		5	3	10	4	25	25	25	25
② 対象指標	ア 筆		96	54	100	71	115	115	115	115
	イ m		7,957.78	1,871.58	8,000	5,582.76	8,200	8,200	8,200	8,200
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100	100	100	100	100
	イ									
投 入 費 用	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	4,162	4,558	4,971	2,777	4,671	14,665	13,994
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	4,162	4,558	4,971	2,777	4,671	14,665	13,994
		(A)のうち指定経費	千円	1,618	1,624	1,671	1,618	1,671	3,342	3,342
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	2	3	7	5	7	7	7
入 費 用	人 件 費	延べ業務時間	時間	1,200	750	1,000	350	1,000	1,000	1,000
		(B) 人件費計	千円	4,845	3,053	4,071	1,394	4,071	4,071	4,071
	トータルコスト(A)+(B)		千円	9,007	7,611	9,042	4,171	8,742	18,065	18,065

事務事業名	市道登記測量事業	所属部	事業部	所属課	建設課
-------	----------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 市が取得した土地についての所有権移転等の登記は、早期に完了すべきである。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現状維持
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 適正な事業推進のためには削減の余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在も、嘱託職員の任用、登記委託を実施しており、削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市取得用地の測量登記事務であるため、公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市が購入した土地についての登記は市が行うべきである。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

登記については、契約をいただいた土地や寄付行為の分すべて終わったが、なかには字図と現況の土地で境界があわず地図訂正等をおこなったところがあった。国土調査時の地図と現況があわないうところのみうけられるので今後も地図訂正等の作業が増える可能性がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）			(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持																									
	低下																									
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																										